

△この1枚の盟約書からフッドリバー市との交流が始まりました。

# 1977-2017 HOOD RIVER ● TSURUTA 姉妹都市締結40周年



△当時のフッドリバーニュースに掲載された調印式の記事

鶴田町は、昭和52年（1977年）7月27日に米国オレゴン州フッドリバー市と姉妹都市盟約を締結して今年で40周年を迎えます。

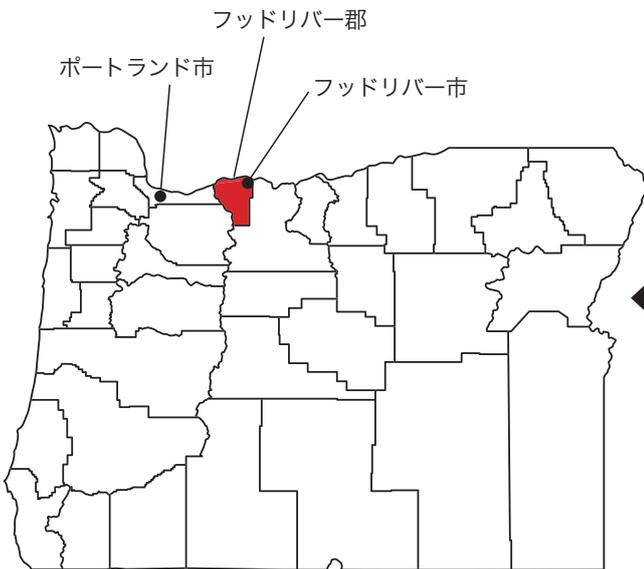
「21世紀は国際化時代になる。国際化時代に対応できる人づくりが急務である」ということから歩み始めた当町の国際交流事業。40年にわたる交流の歴史の中で、両市町では子供から大人までたくさんの人々が互いのまちを行き来し、友情と絆を育んできました。

今月号では、フッドリバー市とはどのようなまちなのか、また、当町との姉妹都市盟約締結までの経緯、そしてフッドリバーとの交流事業をご紹介します。



# フッドリバー市はどんなところ？

フッドリバー市は、米国オレゴン州の北部に位置するフッドリバー郡の郡庁所在地。フッド川とコロンビア川の合流地点にあり、コロンビア川を挟んでワシントン州が隣接しています。東京からポートランド市までは飛行機で約9時間半、そこから車で約1時間30分でフッドリバー市に行くことができます。



△オレゴン州



△アメリカ合衆国

## フッドリバーの人口・面積・気候

フッドリバー市は1895年に設立。面積は8.68km<sup>2</sup>で人口は7476人（2014年データ）、人種別にみると、白人が最も多く、次いでラテン系アメリカ人が約3割を占めます。

フッドリバーの西側の気候は温かく、雨がたくさん降るため温帯雨林が広がっています。その一方で、東側の地域は乾燥地帯で草原が広がっています。全体的には夏は温かく、冬は雨が多い地域です。

## 果樹栽培が盛ん。文化的で住みよいまち

フッドリバーでは、リンゴ、ナシ、サクランボなどの果樹栽培が盛んです。また、地ビールも有名で、「ホップス・フェス」というビール祭りが毎年開催されます。

夏の期間には、毎月第1金曜日に「ファースト・フライデー」というフェスティバルが開催され、ダウンタウンエリアの道路でさまざまな催しが行われます。

ラテン系アメリカ人が多く住んでいるため、本場のメキシカン料理を味わえる店があります。また、フッドリバーは、絵画や手作りクラフトなど芸術活動がとても盛んなまちです。

## 自然豊かで観光地として人気

フッドリバーは峡谷に位置しているため、風が強く、すぐそばを流れるコロンビア川はウィンドサーフィンが行われることで有名です。世界中からウィンドサーファーが訪れ、「ゴージ・ゲームズ」というウィンドサーフィンとカイトボードの選手権が行われます。

美しい自然や景色が広がっており、フッド山も近く、カヤックやマウンテンバイク、スキー、ハイキングなどが楽しめるため、多くの観光客が訪れます。フッドリバーは小さな地域ですが、高級ブランド店やたくさんのおしゃれな店、カフェなどがあります。また、農園やワイナリーもたくさんあるため、観光地としてとても人気です。



△フッドリバーの景色



△アメリカ第2位の高さを誇るマルトノマの滝など素晴らしい景観も見られます。

# 姉妹都市締結までの道のり

## 姉妹都市盟約締結へ模索する日々

鶴田町では、昭和50年頃から「来たるべき21世紀に向けてのまちづくり」を考えていました。いずれ必ず訪れるであろう国際化の時代を見据え、「これからのまちづくりには、国際化に対応できる人づくりがなされている必要がある」と考え、海外の市町との交流をいち早く進めようとしていました。

しかし、当時は「国際交流」という言葉は一般的にあまり使われていなく、海外旅行にしても、渡航者の数は今とは比較にならないほど少ない時代でした。このような状況の中で、海外の市町と交流を締結することは当町にとって大きな冒険であったといえます。

その後、本格的に相手先を探す段階に入りましたが、当町の提案する条件に見合う市町がなかなか見つかりませんでした。相手先選びは難航し、進展しない月日が過ぎていきました。

## レイ・ヤスイ氏との出会い

前町長である中野肇司氏は、東奥日報社の山本省一社長（当時）に、海外の姉妹都市締結の市町について相談したところ、米国オレゴン州のフッドリバー市を勧められました。そして、フッドリバー市には知り合いがいるということ。その人こそが、当町とフッドリバー市の姉妹都市締結、そして現在まで続く交流の礎を築いてくれたレイ・ヤスイ氏でした。ヤスイ氏は、フッドリバー市では有数の実力者でもあり、また、市政に永年尽くされていた方で、当町とフッドリバー市間の調整役として大きく尽力されました。

ヤスイ氏は姉妹都市締結後も、当時、全国的にも珍しかった中学生大使の派遣事業について、現地の受け入れ態勢を整えてくれました。以来、両市町間では、多くの中学生・高校生大使、親善訪問団が行き来しており、ヤスイ氏が現在の町の国際交流の基盤をつくってくれたといっても過言ではありません。



レイ ヤスイ 氏

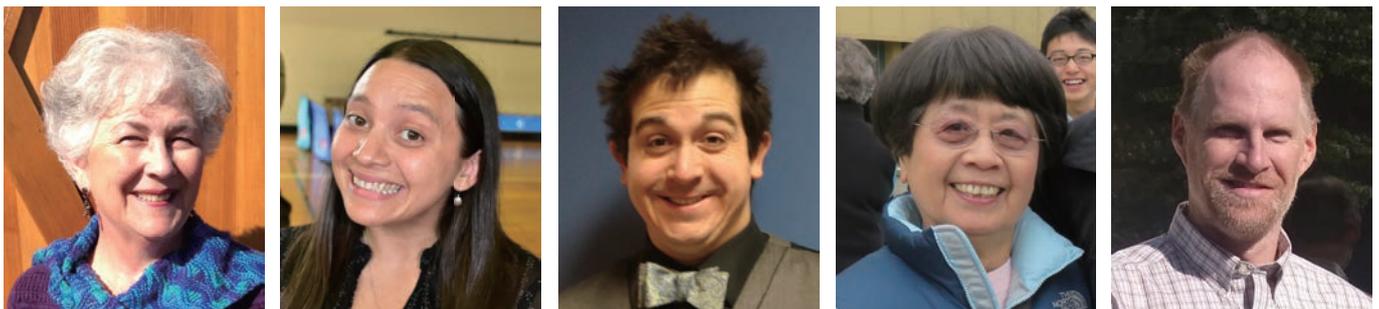
## 姉妹都市が決定。いよいよ開かれた国際社会への扉

フッドリバー市の概要を聞くにつれ、当町が望む条件と合致しました。町では、「これはいい締結になる」と考え、昭和51年に県のリンゴ視察団がフッドリバー市を訪問。視察をした結果、当町の姉妹都市の相手先として望ましいとの結論に達し、いよいよ姉妹都市締結へ動き出しました。

昭和51年10月、レイ・ヤスイ氏がフッドリバー市議会へ当町との姉妹都市盟約締結を推挙。当時のフッドリバー市長から当町へ締結の意向を示す書簡が到着し、実質的に姉妹都市が決定しました。昭和52年3月には、当町の定例議会で満場一致で採択され、フッドリバー市との姉妹都市締結が正式に決定しました。

そして、昭和52年7月27日、フッドリバー市において調印式が行われ、両市町の交流がスタートしました。

## 現在、両市町の交流に尽力されているフッドリバー市の皆さん



(左から) フッドリバー姉妹都市委員会会長のシャーリーン・ウィルキンズさん、副会長のリサアン・カワチさん、理事のニコー・ヤスイさん、理事のカーロス・トシコさん、現フッドリバー市長のポール・ブラックバーンさん

# フッドリバーとの交流

姉妹都市盟約を締結した翌年の昭和53年には、フッドリバー市から訪問団22人が当町を訪れ、鶴田町とフッドリバー市との「人」の交流が始まりました。

これまでに当町とフッドリバー市を行き来した中学生・高校生大使や留学生、親善訪問団などは合わせて1752人にのぼります（平成29年4月1日現在）。

## 中学生大使・高校生大使派遣事業

鶴田中学校の生徒がフッドリバー市を訪れ、一般家庭にホームステイし、学校を訪問しながら、アメリカの生活習慣や文化を学ぶ事業。今年の3月で33回目を迎えました。平成12年からは鶴田高校国際教養コースの生徒も正式な交流団として参加。これまでにフッドリバー市を訪れた中学生・高校生大使は平成29年4月1日現在で、945人（中学生654人、高校生291人）にのぼります。フッドリバー市民との友情を育み、交流の大切さを学ぶ機会として、訪問した生徒の皆さんからは「もっと英語を勉強して、またフッドリバーに行きたい」「ホストファミリーが優しくもてなしてくれて、フッドリバーに第2の家族ができました」といった声が毎年聞かれています。



## 国際交流員・英語指導助手

国際化に対応できる人づくりを実現するためには、小さい頃から外国人や外国語、特に英語に触れておくことが必要であるということから、当町では昭和63年より外国青年招致事業で英語指導助手を、さらに平成2年には国際交流員を招致しました。これまで、42人の英語指導助手と国際交流員が来町しています（うち16人がフッドリバーから来町）。

当町では主に、英語指導助手が中学校で、国際交流員が幼稚園や保育園、小学校に出向き、授業や遊びを通して外国や英語、異文化に対する興味を子どもたちに持たせています。彼らの活動は鶴田町の国際交流の発展に大きな役割を果たしています。



## フッドリバー市民と親しくする会

昭和55年、フッドリバー市民との友好と親善を深めようと「フッドリバー市民と親しくする会」が設立されました。同会はフッドリバーから訪問団が訪れた際の歓迎行事への参加のほか、毎年開催する総会では、フッドリバーを訪問した中学生・高校生大使が現地での交流の様子を発表します。

同会があることで、時が経ってもフッドリバーへの懐かしさを忘れず、フッドリバー市民と結んだ友情と絆を絶やすことなく、両市町の交流を長年続けることができています。



## 交換留学生制度

国際化に対応した人づくりを推進するため、昭和54年から始まった制度。1年間、フッドリバーの高校に留学し、現地的一般家庭にホームステイします。昭和54年に町から1人目の留学生をフッドリバー市に派遣し、昭和56年にはフッドリバー市から初の留学生が来町しました。

これまでに当町から派遣した留学生は24人、フッドリバー市から来町した留学生は5人です。

